

札幌市

高齢社会に関する意識調査

報告書（概要版）

目次

1	調査の概要	1
2	住まい・家族構成など	2
3	生活状況や社会参加	8
4	心身の状況	14
5	保健・福祉施策	18

1 調査の概要

【調査目的】

この調査は、幅広い世代の方々の高齢社会に対する意識や高齢者福祉施策全般に関する考え方を把握・整理し、令和6年度を始期とする新たな「高齢者支援計画」の策定や各高齢者施策・介護保険事業の実施に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

令和4年12月1日現在、札幌市内に在住する65歳以上の市民5,000人、40歳以上64歳以下の市民1,500人を居住区別の構成比率に基づき無作為に抽出した。

【調査基準日】

令和4年12月1日とした。

(令和4年12月1日現在の状況について回答していただいた。)

【調査期間】

令和4年12月1日～令和4年12月23日

【調査方法】

郵送による調査票の発送・回収

【回収結果】

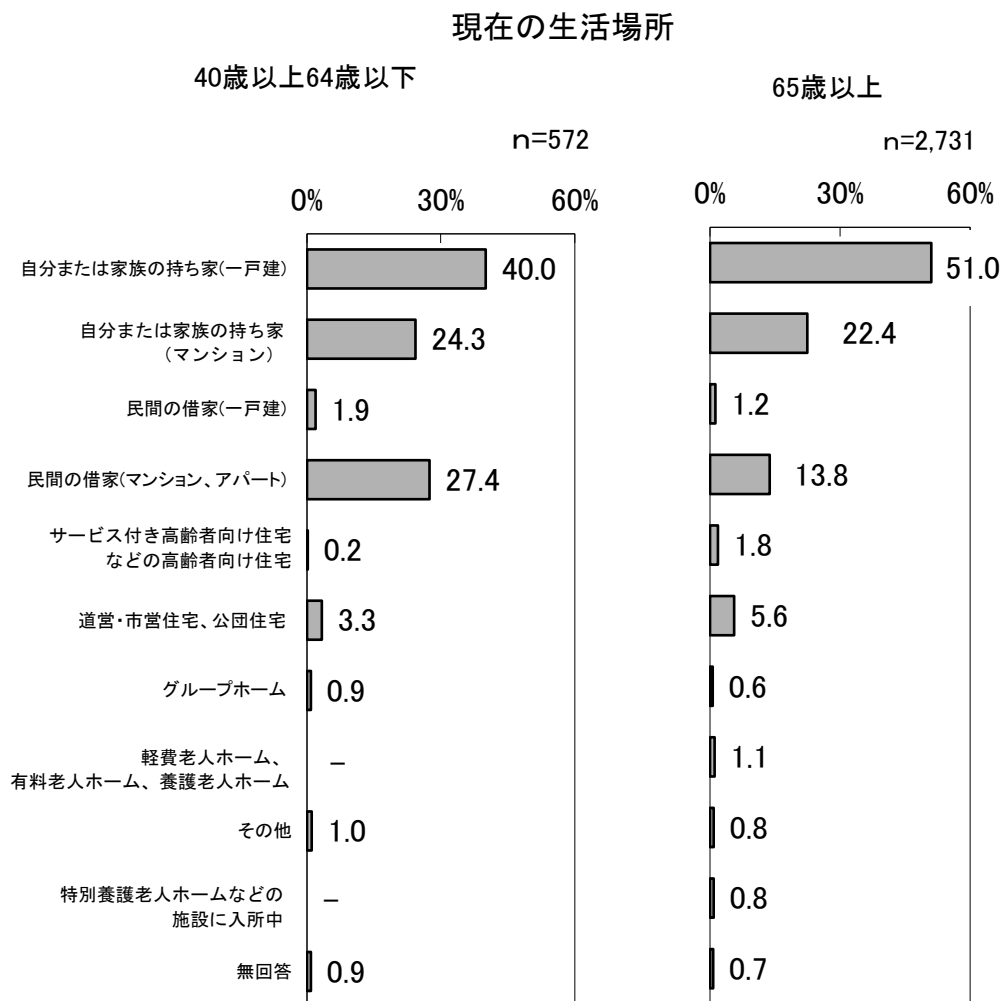
	40歳以上 64歳以下	65歳以上	合計
発送数	1,500件	5,000件	6,500件
回収数			3,353件 (51.6%)
有効回収数			3,345件 (51.5%)
有効回答数	572件 (38.1%)	2,731件 (54.6%)	3,303件 (50.8%)

2 住まい・家族構成など

◆ 現在の生活場所

現在の生活場所は、64歳以下で「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く40.0%となっており、次いで「民間の借家（マンション、アパート）」（27.4%）、「自分または家族の持ち家（マンション）」（24.3%）の順となっている。

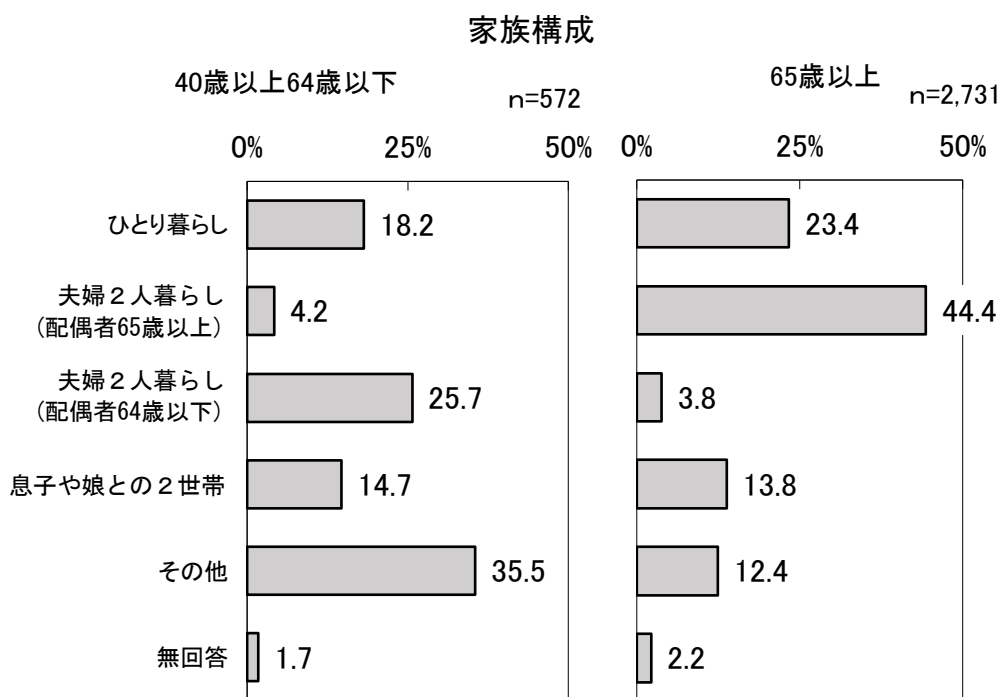
65歳以上でも同様に「自分または家族の持ち家（一戸建）」が最も多く51.0%となっており、次いで「自分または家族の持ち家（マンション）」（22.4%）、「民間の借家（マンション、アパート）」（13.8%）となっている。



◆ 家族構成

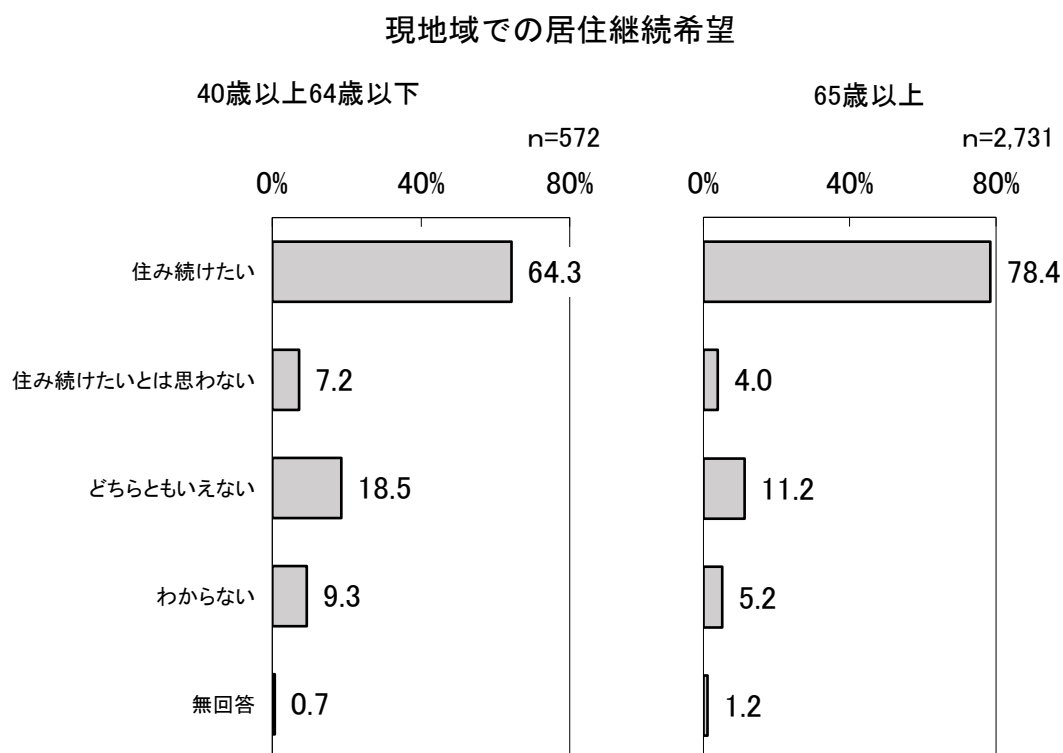
世帯の家族構成について尋ねたところ、64歳以下は「その他」が最も多く35.5%、65歳以上は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多く44.4%となっている。

一方、「ひとり暮らし」は、64歳以下は18.2%、65歳以上では23.4%となっている。



◆ 現地域での居住継続希望

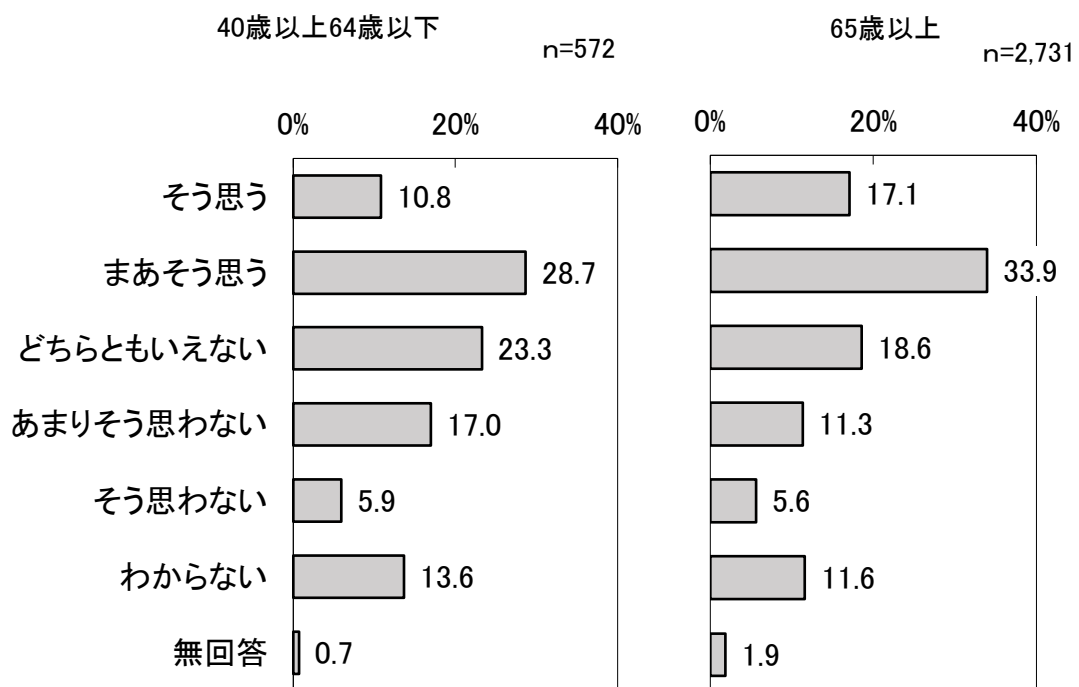
今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うか尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「住み続けたい」が最も多く、64歳以下は64.3%、65歳以上は78.4%となっている。一方、「住み続けたいとは思わない」は、64歳以下は7.2%、65歳以上は4.0%となっている。



◆ 生活環境の整備状況

札幌市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思うかを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「まあそう思う」が最も多く、それぞれ28.7%、33.9%となっている。

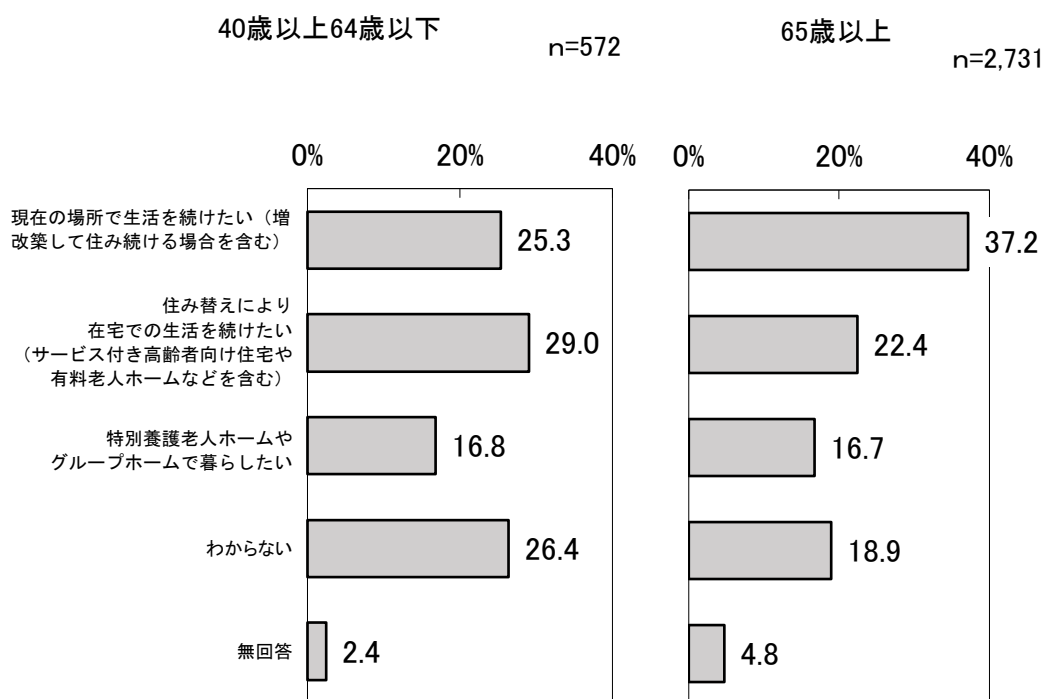
生活環境の整備状況



◆ 今後の生活場所の希望

身体が弱くなったりした場合の生活場所について尋ねたところ、64歳以下は「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(29.0%)が最も多く、次いで「わからない」(26.4%)となっている。65歳以上は、「現在の場所で生活を続けたい（増改築をして住み続ける場合を含む）」(37.2%)が最も多く、次いで「住み替えにより在宅での生活を続けたい（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどを含む）」(22.4%)となっている。

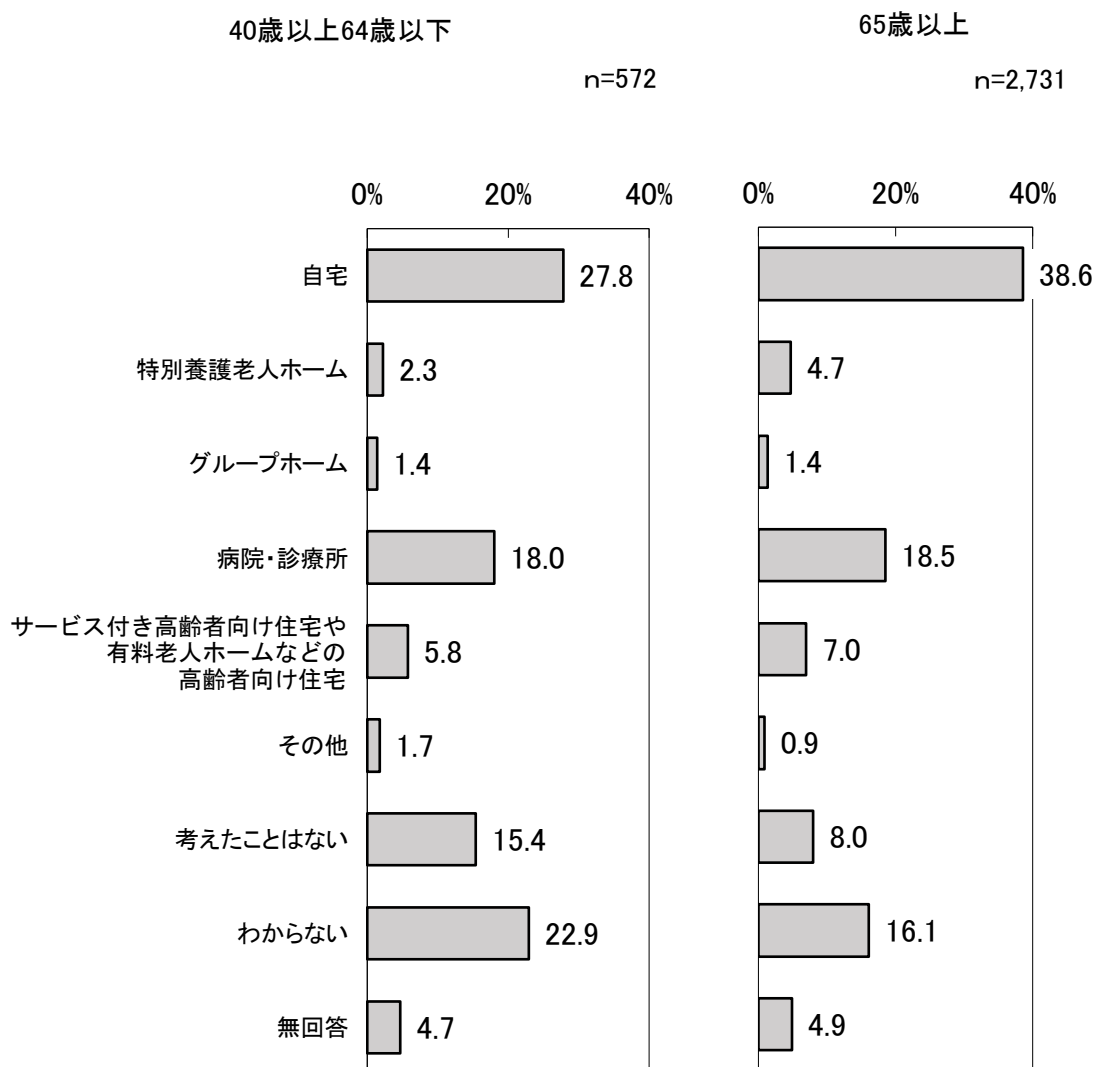
今後の生活場所の希望



◆ 最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所について尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「自宅」が最も多く、64歳以下は27.8%、65歳以上は38.6%となっている。次いで、64歳以下は、「病院・診療所」(18.0%)、「考えたことはない」(15.4%)となっており、65歳以上は、「病院・診療所」(18.5%)、「考えたことはない」(8.0%)となっている。

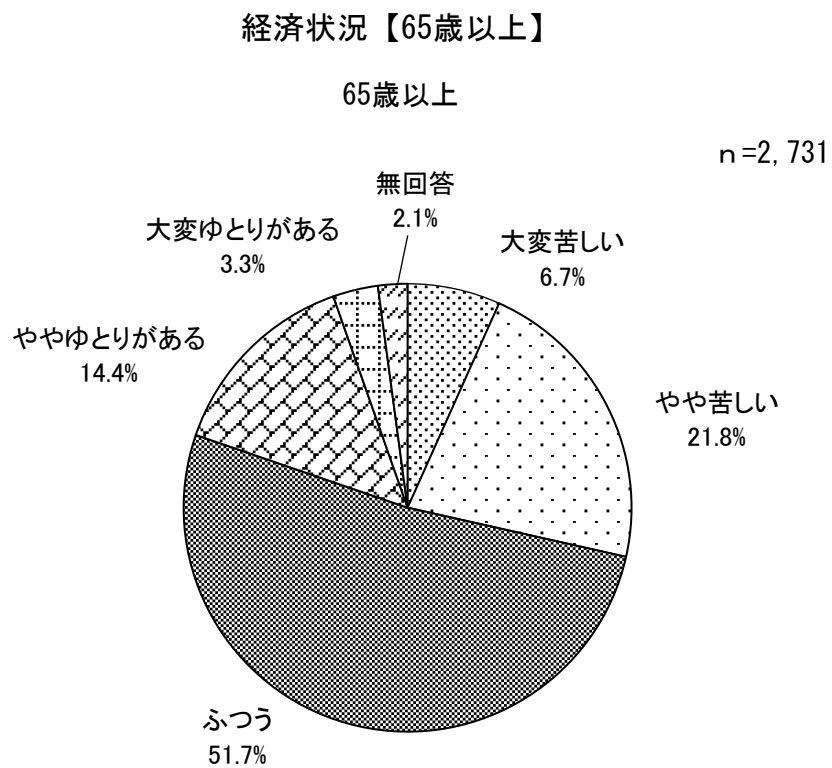
最期を迎えたい場所



3 生活状況や社会参加

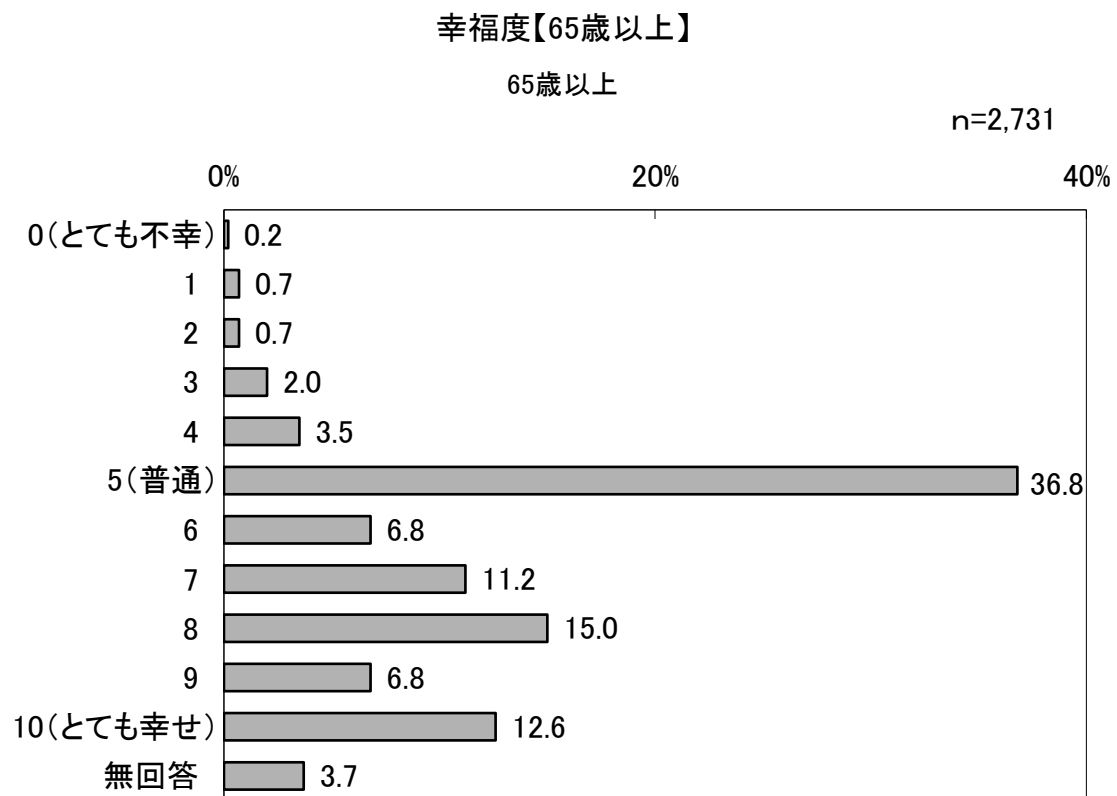
◆ 経済状況【65歳以上のみ】

現在の経済的な暮らしの状況について尋ねたところ、「ふつう」(51.7%) が最も多く、次いで「やや苦しい」(21.8%)、「ややゆとりがある」(14.4%) となっている。



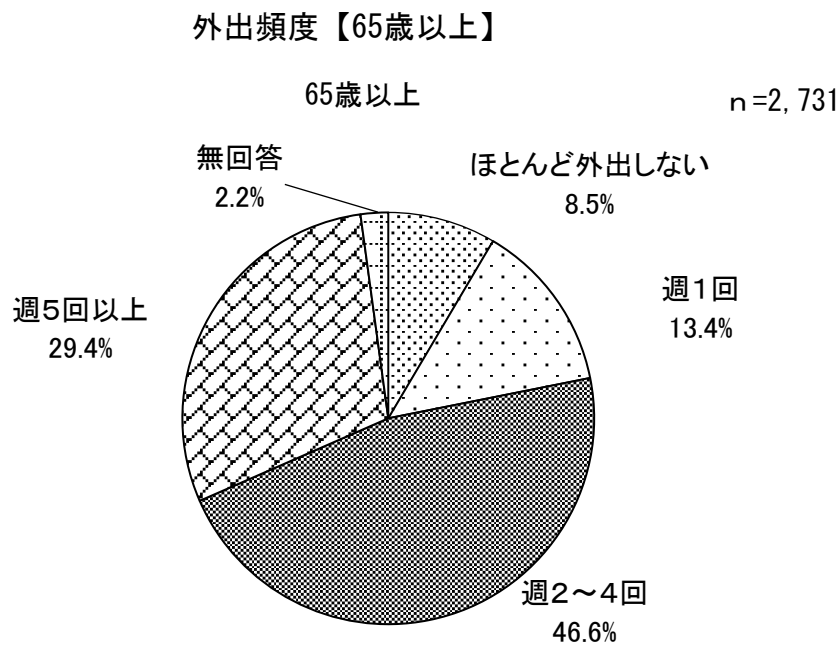
◆ 幸福度【65歳以上のみ】

現在の幸福度について尋ねたところ、「5（普通）」（36.8%）が最も多く、次いで「8」（15.0%）、「10（とても幸せ）」（12.6%）となっている。



◆ 外出頻度【65歳以上のみ】

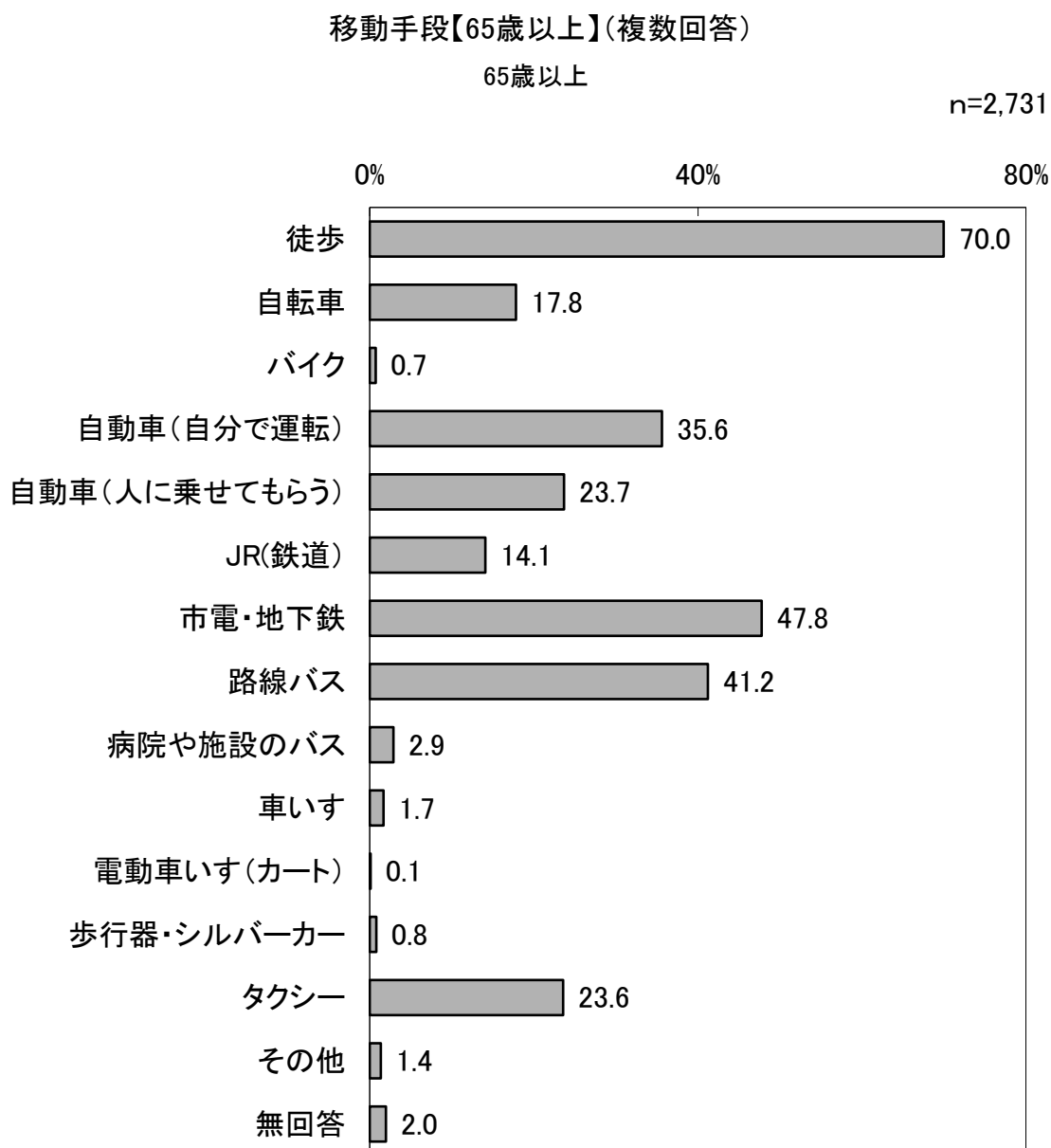
週に1回以上は外出しているかを尋ねたところ、「週2～4回」(46.6%)が最も多く、次いで「週5回以上」(29.4%)、「週1回」(13.4%)となっている。



◆ 移動手段【65歳以上のみ】

(複数回答)

外出する際の移動手段について尋ねたところ、「徒歩」(70.0%)が最も多く、次いで「市電・地下鉄」(47.8%)、「路線バス」(41.2%)となっている。



◆ 社会参加の機会【65歳以上のみ】

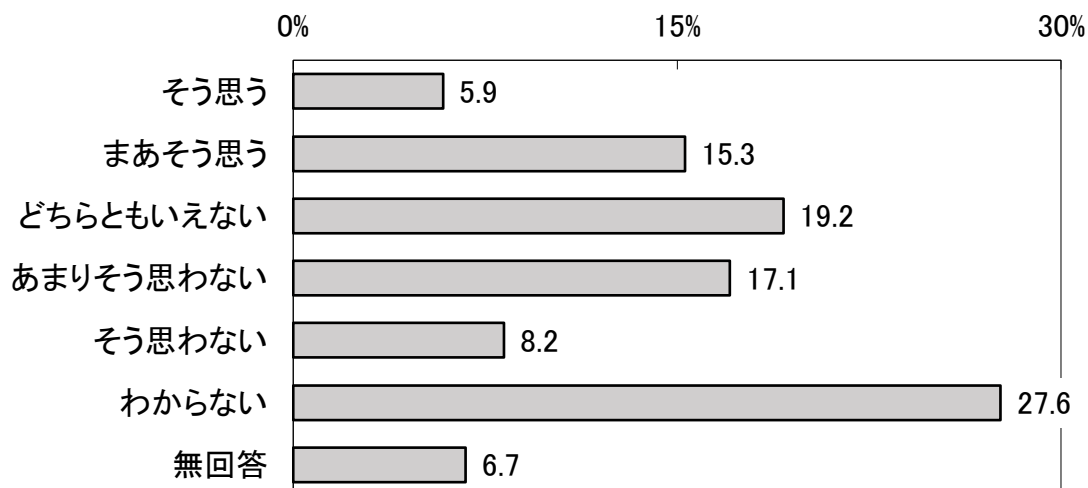
札幌市は、高齢者が積極的に社会参加できる機会が十分にあると思うかを尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が 21.2%となっている。

一方、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は 25.3%となっている。

社会参加の機会【65歳以上】

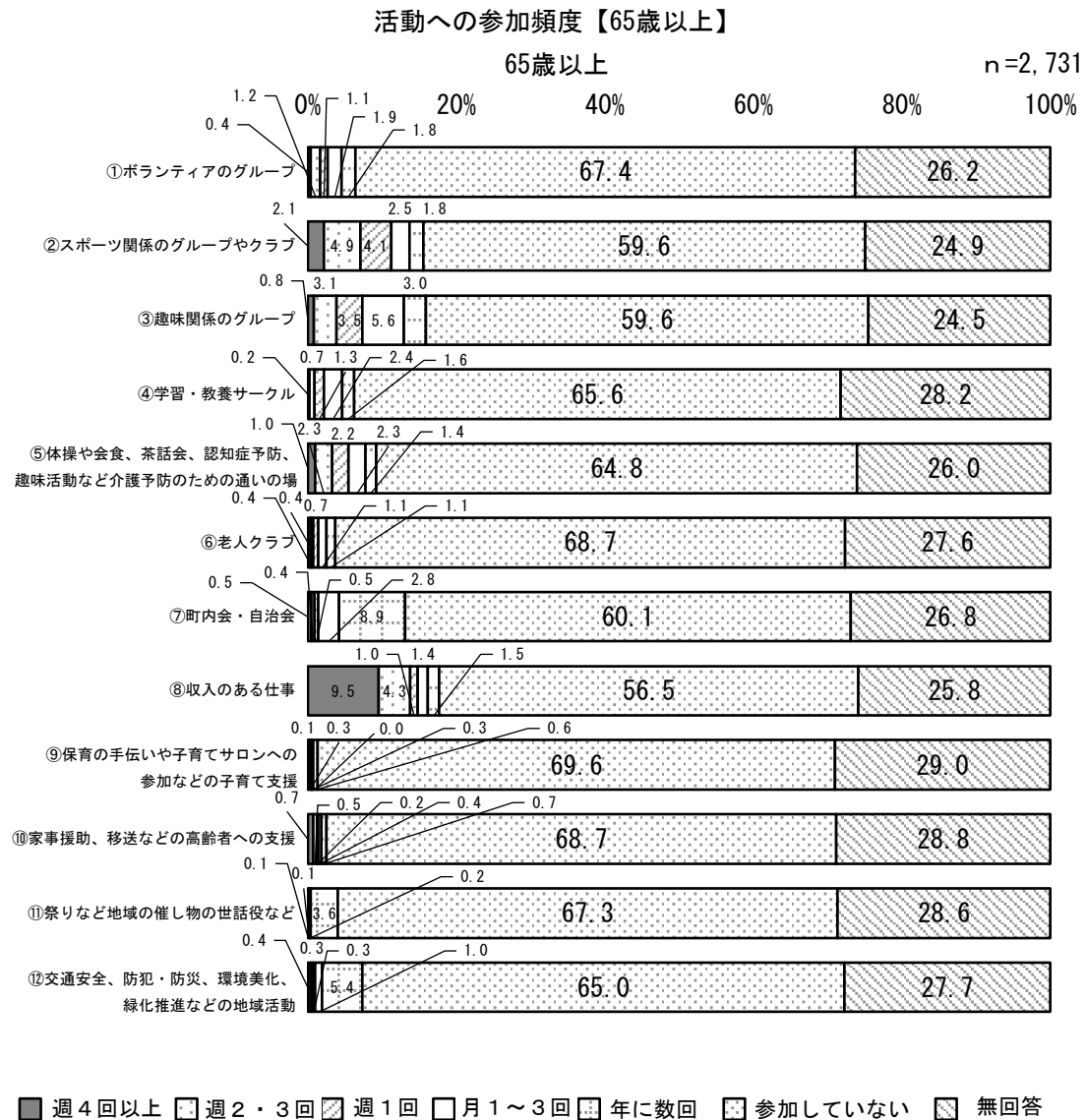
65歳以上

n=2,731



◆ 活動への参加頻度【65歳以上のみ】

地域活動参加の頻度について尋ねたところ、すべての会・グループにおいて「参加していない」が半数を超える結果となった。



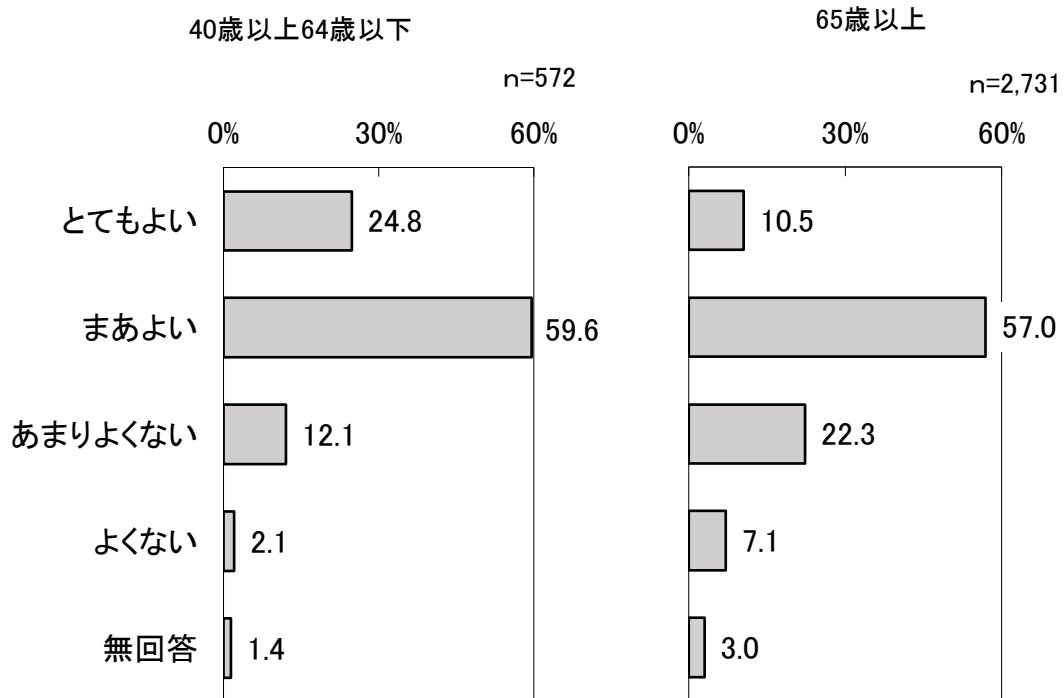
4 心身の状況

◆ 主体的健康感

健康状態について尋ねたところ、「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合が、64歳以下は84.4%、65歳以上は67.5%と、ともに半数を超えている。

一方、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は、64歳以下は14.2%、65歳以上は29.4%となっている。

主観的健康感

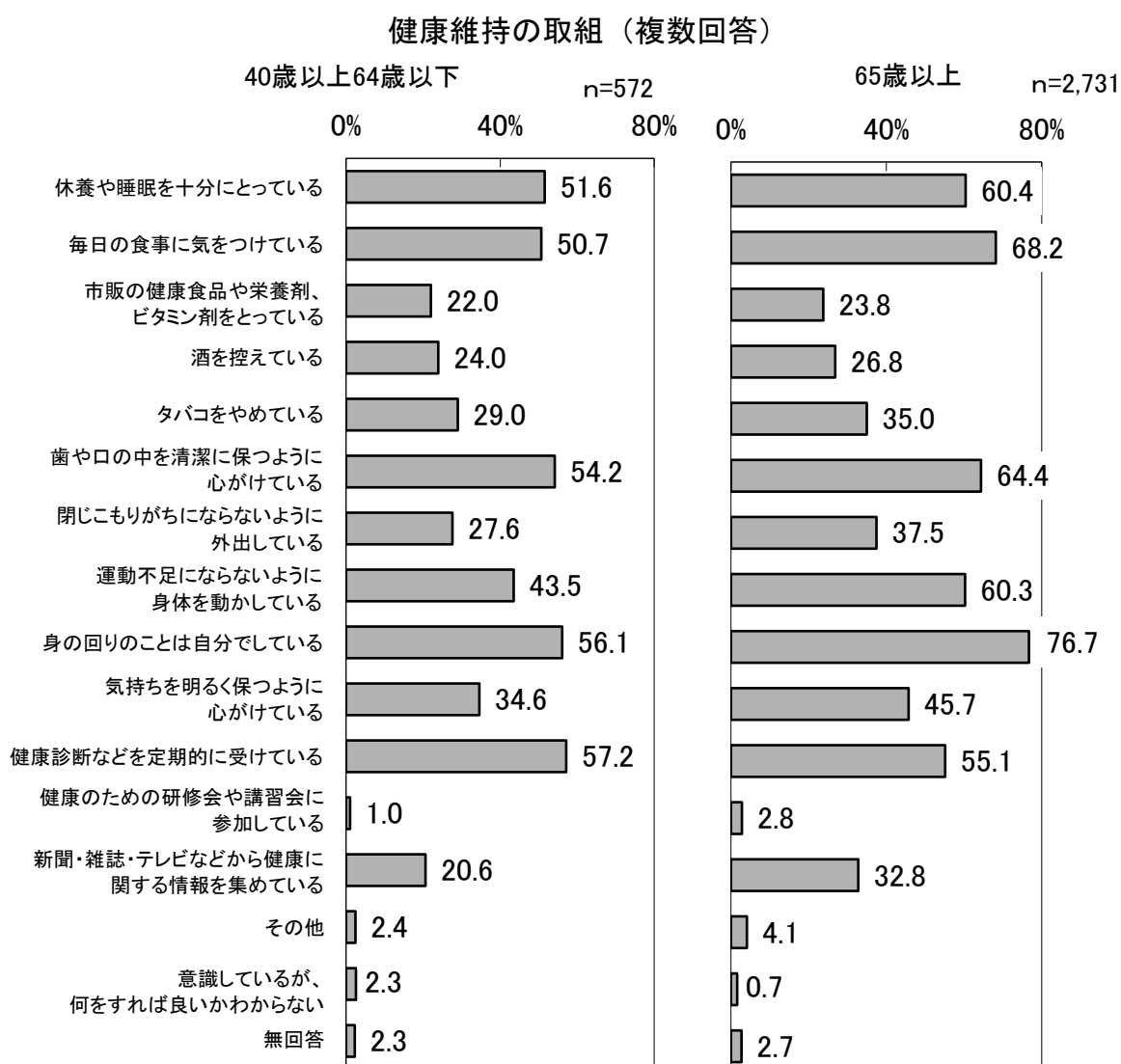


◆ 健康維持の取組

(複数回答)

現在、健康維持のために気をつけていることを尋ねたところ、64歳以下は「健康診断などを定期的を受けている」(57.2%)が最も多く、次いで、「身の回りのことは自分でしている」(56.1%)、「歯や口の中を清潔に保つように心がけている」(54.2%)となっている。

一方、65歳以上では「身の回りのことは自分でしている」(76.7%)が最も多く、次いで、「毎日の食事に気をつけている」(68.2%)、「歯や口の中を清潔に保つように心がけている」(64.4%)となっている。



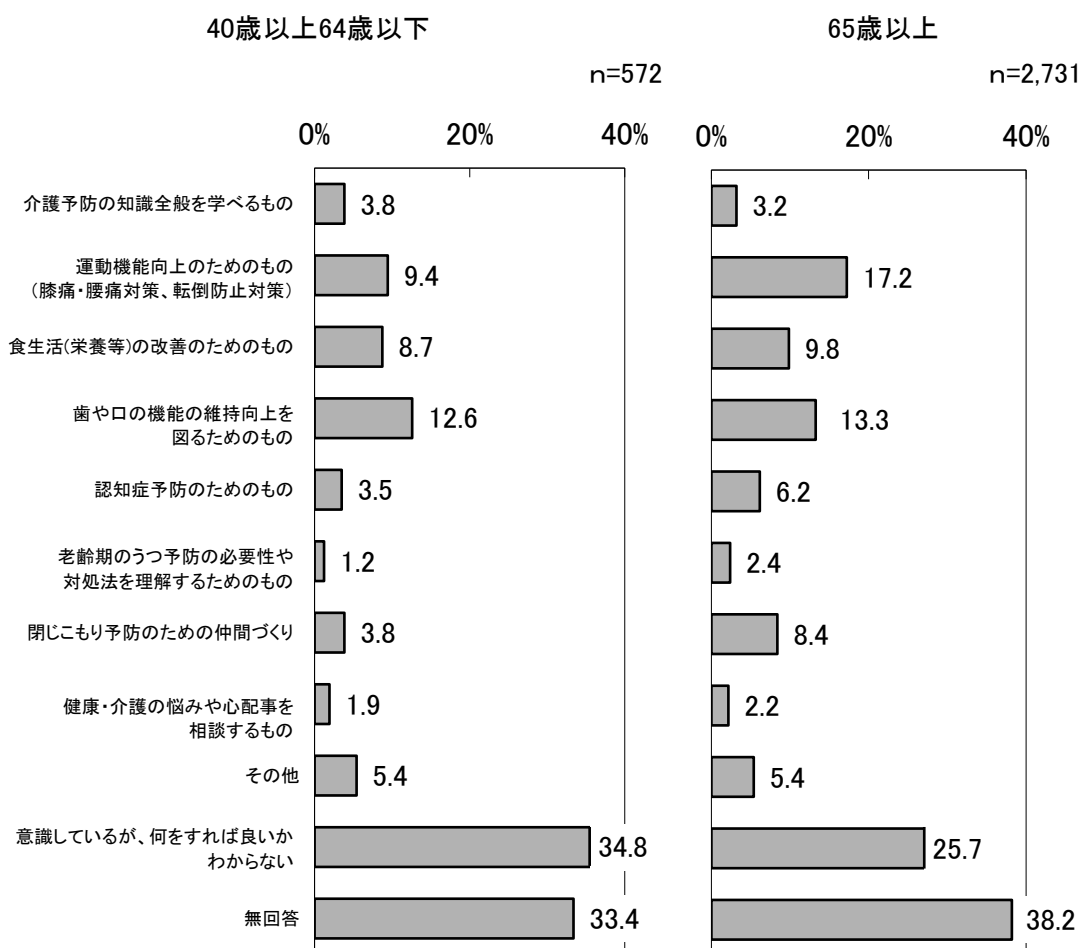
◆ 介護予防の取組

(複数回答)

介護予防のために参加しているものを尋ねたところ、64歳以下は「意識しているが、何をすれば良いかわからない」(34.8%)が最も多く、次いで、「歯や口の機能の維持や向上を図るためのもの」(12.6%)、「運動機能向上のためのもの(膝痛・腰痛対策、転倒防止対策)」(9.4%)となっている。

一方、65歳以上では「意識しているが、何をすれば良いかわからない」(25.7%)が最も多く、次いで、「運動機能向上のためのもの(膝痛・腰痛対策、転倒防止対策)」(17.2%)、「歯や口の機能の維持や向上を図るためのもの」(13.3%)となっている。

介護予防の取組 (複数回答)

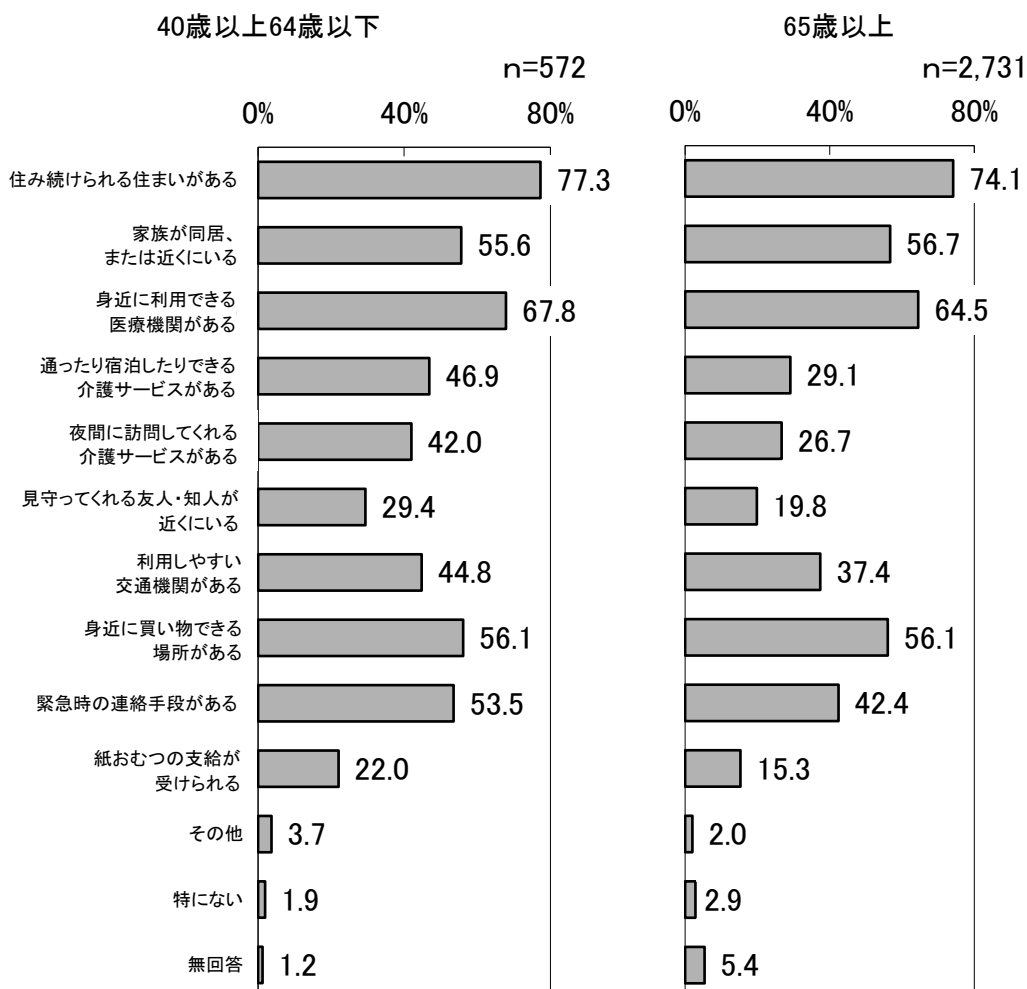


◆ 在宅生活に必要なこと

(複数回答)

介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには何が必要かを尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「住み続けられる住まいがある」が最も多く、64歳以下では77.3%、65歳以上は74.1%となっている。次いで、64歳以下は「身近に利用できる医療機関がある」で67.8%、「身近に買い物できる場所がある」で56.1%となっており、65歳以上は「身近に利用できる医療機関がある」で64.5%、「家族が同居、または近くにいる」で56.7%となっている。

在宅生活に必要なこと (複数回答)



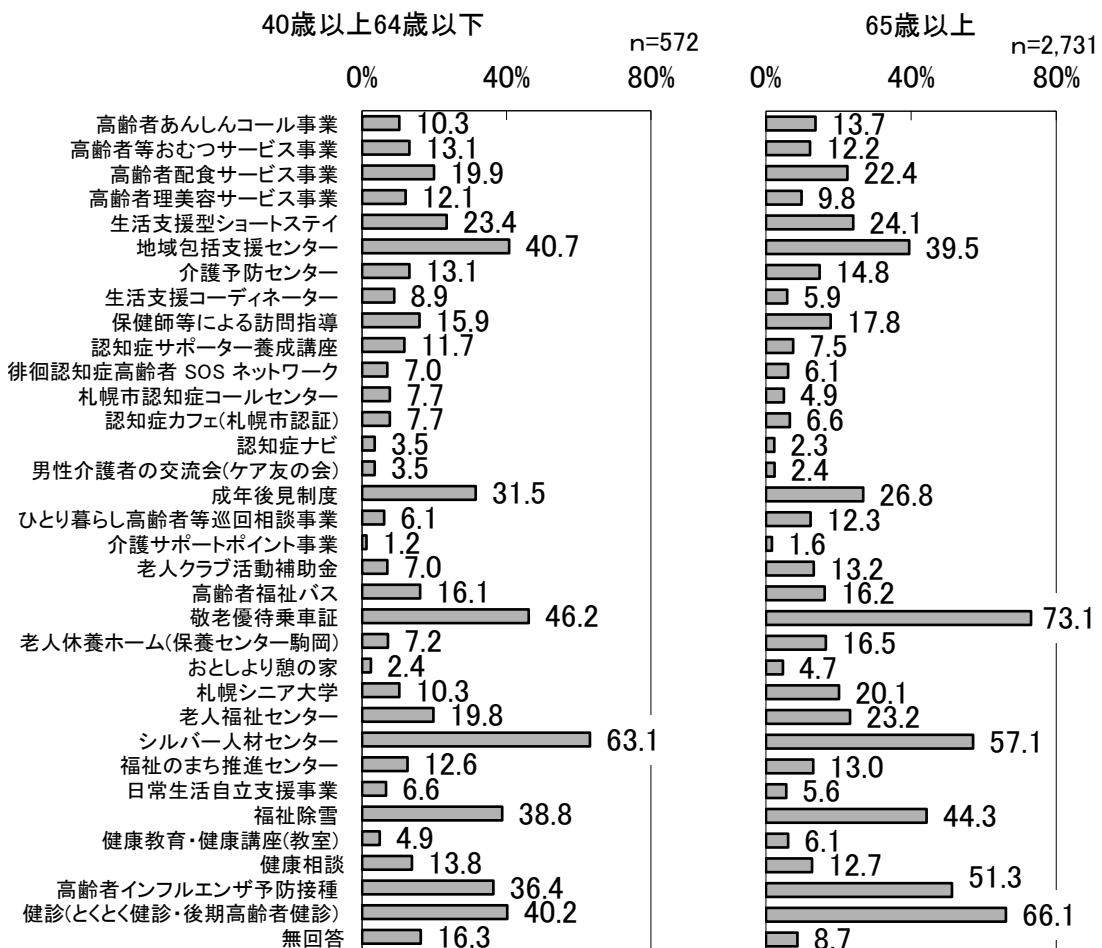
5 保健・福祉施策

◆ サービスの認知度

(複数回答)

札幌市などが行っている高齢者を主な対象とした保健・福祉サービスなどで知っているものがあるか尋ねたところ、64歳以下は「シルバー人材センター」(63.1%)が最も多く、次いで、「敬老優待乗車証」(46.2%)、「地域包括支援センター」(40.7%)となっており、65歳以上は、「敬老優待乗車証」(73.1%)が最も多く、次いで「健診(とくとく健診・後期高齢者健診)」(66.1%)、「シルバー人材センター」(57.1%)となっている。

サービスの認知度 (複数回答)

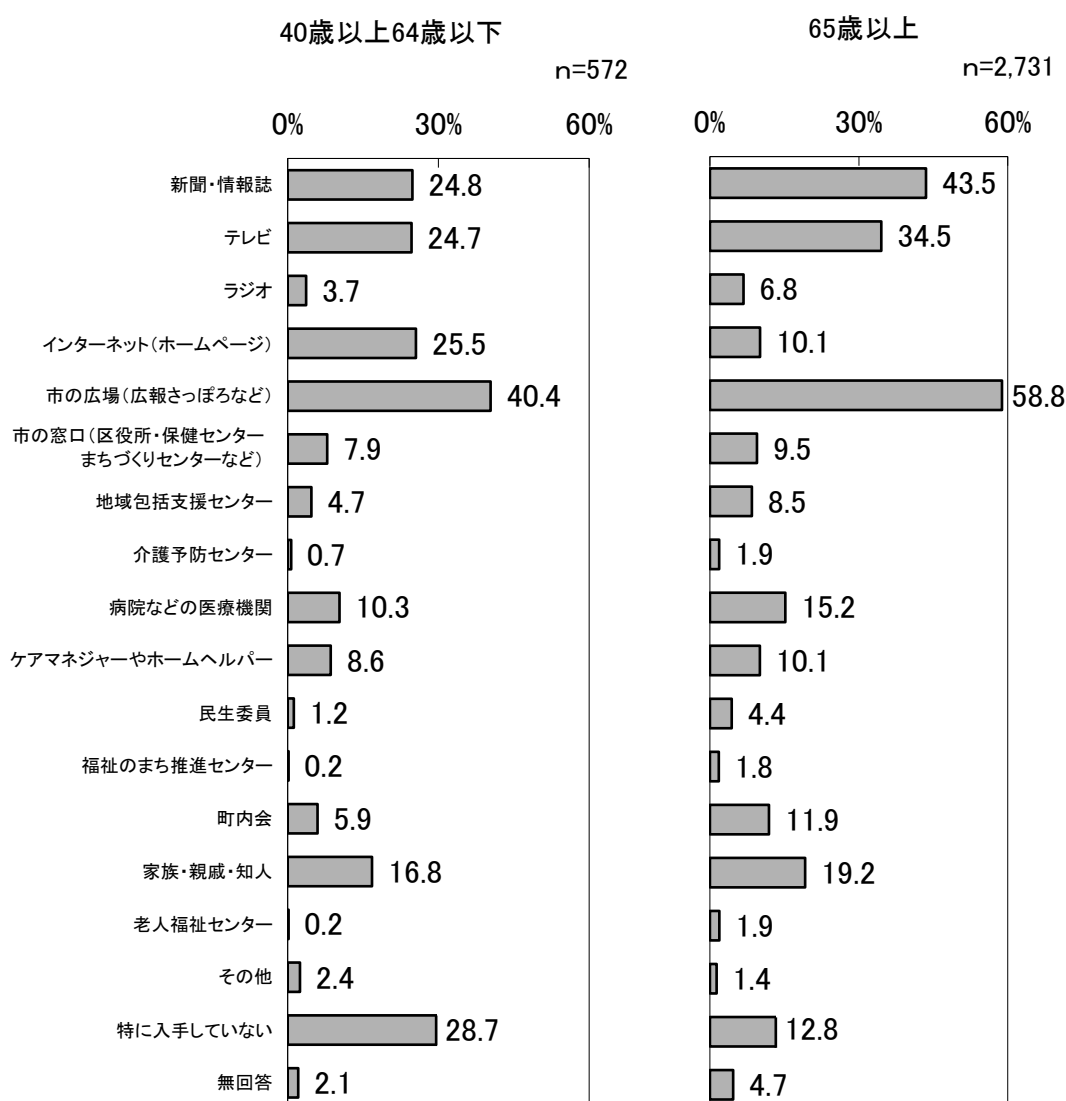


◆ サービス情報の入手先

(複数回答)

高齢者の保健・福祉サービスに関する情報を主にどこから入手しているか尋ねたところ、64歳以下、65歳以上ともに「市の広報（広報さっぽろなど）」が最も多く、64歳以下は40.4%、65歳以上では58.8%となっている。次いで、64歳以下は「特に入手していない」(28.7%)、65歳以上は「新聞・情報誌」(43.5%)となっている。

サービス情報の入手先（複数回答）

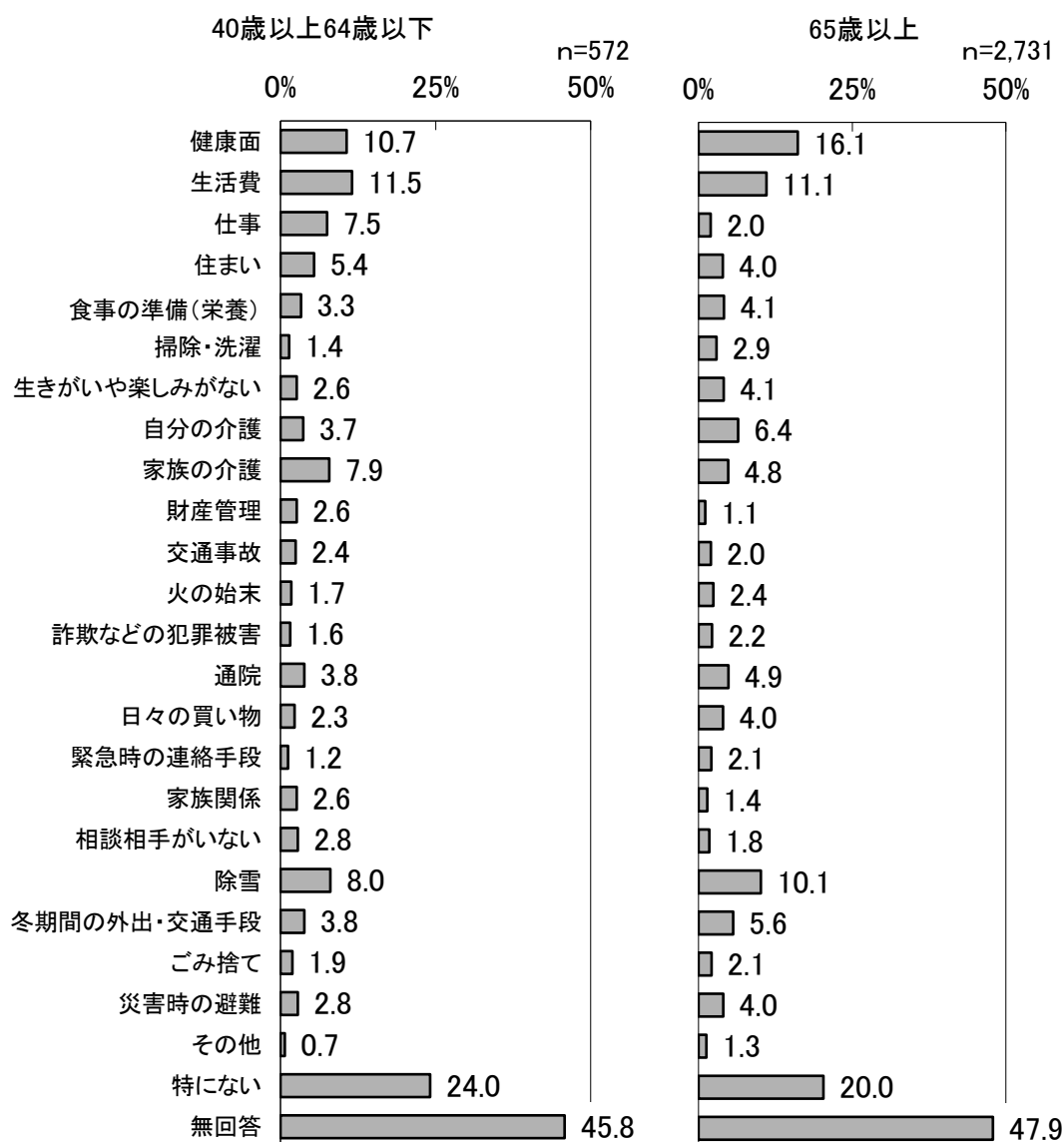


◆ 現在の困りごと

(複数回答)

現在困っていることについて尋ねたところ、無回答を除くと64歳以下、65歳以上ともに「特にない」が最も多く、64歳以下は24.0%、65歳以上では20.0%となっている。次いで、64歳以下は「生活費」(11.5%)、65歳以上は「健康面」(16.1%)となっている。

現在の困りごと (複数回答)

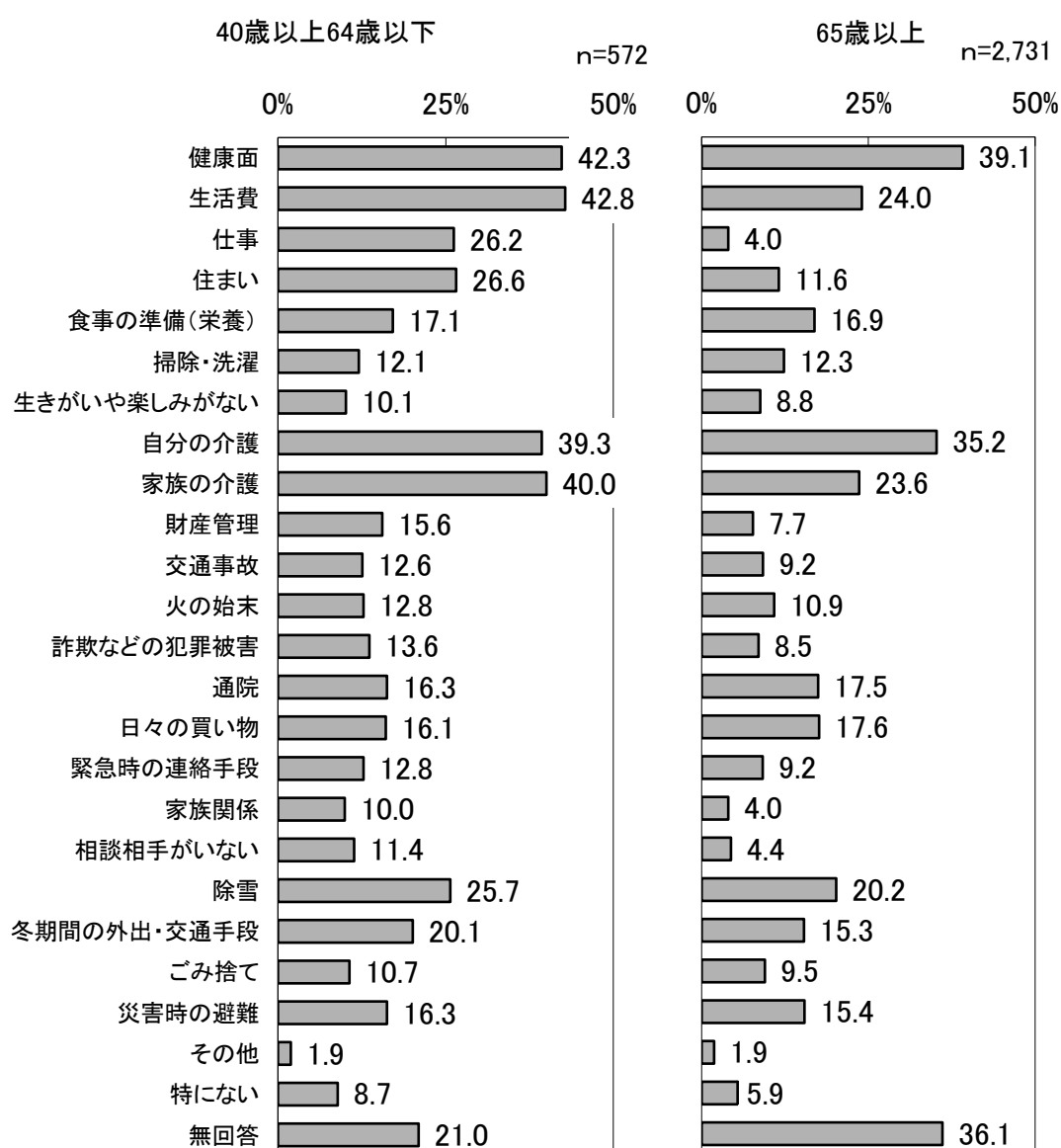


◆ 将来の不安

(複数回答)

将来不安なことについて尋ねたところ、無回答を除くと64歳以下は「生活費」(42.8%)が最も多く、次いで「健康面」(42.3%)、「家族の介護」(40.0%)となっており、65歳以上では「健康面」(39.1%)が最も多く、次いで「自分の介護」(35.2%)、「生活費」(24.0%)となっている。

将来の不安 (複数回答)



◆ 困りごとや不安の相談先

(複数回答)

困っていることや不安に思っていることの相談先について尋ねたところ、64歳以下は「家族」(50.9%)が最も多く、次いで「知人」(30.9%)、「市の窓口(区役所・保健センター・まちづくりセンターなど)」(22.6%)となっており、65歳以上では「家族」(54.1%)が最も多く、次いで「市の窓口」(23.3%)、「知人」(18.8%)となっている。

困りごとや不安の相談先 (複数回答)

